

東京白楊だより

第34号

平成23年.9.2
(2011年)



白楊ヶ丘同窓会東京支部 旧制函館中学校
函館中部高等学校

HPアドレス <http://www.h6.dion.ne.jp/~kanchu/>



写真提供：67期 吉岡直道氏（函館在住・吉岡写真館）五稜郭全景、右下は公園内に復元された箱館奉行所

支部長ご挨拶



白楊ヶ丘同窓会東京支部長
安田 康次
67期（昭和40年卒）

皆様にはその後お変わりなくお過ごしのことと存じます。平素は同窓会の発展にご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

3月には東日本大震災という未曾有の災害が発生し、被災された関係者の皆様、又、福島原子力発電所の放射能汚染により、避難を余儀なくされた多くの方々にお見舞いを申し上げますとともに、完全な復興にはまだまだ時間がかかると思われますが、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

東京支部親睦大会の幹事は毎年50歳を迎えた期にお願いしております。今年は81期（昭和54年卒）が幹事期となり、早くから準備を始め、楽しい企画で皆様に喜んでいただけるよう頑張ってきました。その努力の成果を少しでも多くの皆様に楽しんでいただきたく、10月29日には是非出席くださいますよう、心よりお待ちしております。

東京支部の課題の一つであります、年会費納入者の長期減少傾向は、なかなか歯止めがかけられず、依然として同窓会の危機的状況が続いております。今年も新入会者の親睦大会ご招待をはじめ、各期最低2名以上の納入者増加を目標に評議員、理事にお願いしております。

ご不便をお掛けしております事務所もなかなか良いところが見つからず、この1年間会議等は会議室を賃借しながら運営を行い、何とか大きな支障をきたさずに来ましたが、支部活動を安定的に推進できる事務所を引き続き探しております。お心ある方のご協力、情報などがございましたら、ご一報くださいますよう、よろしくお願いたします。

昨年度より、東京支部ホームページの充実を図っておりますが、全ページリニューアルが終わり、すっきり爽やかな見やすい画面に刷新、「東京白楊だより」の全バックナンバーを掲載しました。今年も若い人の力を借りながら、ますます内容を充実させるために、ホームページに掲載する情報を同窓生の皆様から広く募集し、努力してまいります。現在、ネパールに滞在中の68期、見玉久美子さんから「ネパールからナマステ！」という記事を連載中ですのでご覧いただければ幸いです。

最後になりますが、これからも若い方の参加者が少しでも多くなる様な、又ご年配の方々にも楽しめる様な同窓会を目指し、役員一同、なお一層発展に努力してまいりますので、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

今に生きる

函館中部高等学校長 小林 雄司



最近の子どもたちはおとなしくなった、とよく聞く。確かにものわかり良くお行儀良くなっている。反面、人との関わりを避ける傾向にあり、ある意味自立しているようにも見える。それはそれで結構なことではあるが、いじめもある。自己表現が内向きになっていく証拠ではないか。

しかし、中部の生徒を見ているとそうでもない。きわめて活発である。将来のリーダーとして大いに期待できる。今回は昨年度と違う側面から今の中部の様子をお伝えしたい。文武両道の今をしつかりと元気に過ごしている様子が覗えるはずだ。同窓生の白楊魂を受け継ぐ後輩達の応援よろしくお願ひします。

そして、白楊ヶ丘同窓会東京支部のますますのご発展を祈念いたします。

さて、夏休み前の部活動の活躍や学校の取組を紹介する。

(1) 部活動の活躍

高体連・高野連で、今年度の部活動の活躍は輝かしいものがある。まず、弓道部が、地区大会団体で男女アベック優勝を果たす。さらに、サッカー部・柔道部・バドミントン部・水泳部・陸上競技部・体操個人が全道大会へ出場を



才番組部門で優勝して全国大会へ駒を進めている。

今年度の全国大会出場は、高校総体（北東北）に、弓道部で男子個人に相澤考祐君。陸上競技部で百・二百mに久保圭祐君。水泳部で、二百mバタフライに松尾祐輝・大関颯太君。五十m自由形に三上勇人君。四百m・八百mリレー・四百mメドレーリレーに大関颯太、七尾結輝、松尾祐輝、三上勇人、上原健太郎君が出場する。

NHK杯全国高校放送コンテスト（東京）、創作テレビドラマ部門審査結果で準決勝進出を決めた放送局の島早苗、青木祐美、酒井慶人、川嶋卓也、土谷一仁、吉田麻希、掘田千広さんが出場する。放送局は十数年連続全国大会出場を果たしている。

(2) 二学年出前授業

出前講義は、道内外十大学の先生方に集まっていただき、大学の講義を通じて学問の深さを知り、生徒の進路実現に向けた意欲を喚起するために昨年から導入した。講師の先生から高校生向けにわかりやすくかみ砕いたお話から、大学の講義ながらの難解な内容まで、生徒にとっては大学での研究活動の一端を垣間見ることのできる貴重な経験となった。



生徒には受講レポートを課し、単なる感想ではなく、研究者になったつもりで、講義内容についての自分の意見や新しい発見等を記入させました。生徒の書いたレポートの多くは講義の内容がビツシリとメモされ、提示された問題に対する自分の考えや立場、紹介された技術の応用アイデア、なかには、講義内容に対する疑問や反対意見など、深く、能動的に学んだ跡が見られた。大学の先生方からも、「受講態度が素晴らしい」とお褒めの言葉をいただいた。函中生の計り知れない可能性を感じました。

(3) 保護者懇談会

各学年の保護者懇談会が三学年を皮切りに、三学年が五月十四日、百二十名、一学年が六月四日、百十五名、二学年が、六月二十五日・百四十名、全体で三百七十五名の保護者が参加して行われた。三学年は進路指導の話が中心となり、模擬試験結果や昨年度の入試データを資料を参考



に説明した。二学年は、進路指導の話の後に、九月一日に出発する見学旅行の話し、一学年は充実した高校生活と進路実現に向けての話があった。各学年とも全体懇談のあとは、担任の先生を囲んでのクラス懇談となりました。子を持つ親同士、話も盛り上がりつつありました。

(4) 母の会の活躍

母の会は昭和二十六年に発足し父母と教師の会に属しており伝統ある会である。この会の歴史は長く昭和三十一年の活動の記録でも、学校際バザーは繁盛しており十数万円の純利益を得て、当時の正門・生徒通用門の門柱を学校側に寄贈している。今年度も二十万円の寄付をいただき、学校際に役立てている。年度当初から年度計画を立てて学校際に十三回会議を開いている。当日は母の会バザーで、食堂の運営から白楊パイ（五島軒）や手作りのアクセサリー、スリッパ、ハンカチなどの販売と、今年も大盛況であった。



第34回 親睦大会 報告



安田支部長挨拶

平成22年の親睦大会は、昭和53年卒、第80期が幹事を担当しました。第33回の親睦大会後、3名程度の人数での場所の選定から始まり、10回の準備会を経て、親睦大会を迎えることができました。毎回、喧々譁々の話し合いを行い、その後の飲み会で結束を固め、最終的に準備会参加メンバーは25名に増えました。イベントのコンセプトは「80期流、函中とつながる」です。そのため帰省する企画メンバーは、ビデオで函館の風景を撮影したり、母校や恩師を訪ねたり、函館側の同期と打ち合わせしたりなどの連携を深めていきました。

今回、司会は第80期・田村幸悦と黒岡富久子の「こうふくコンビ」が紋付袴、着物姿で担当しました。開会の辞のあと、第67期・安田康次支部長より「雨模様で台風直撃のおそれがあるなか、ご出席いただきありがとうございます。今回、幹事を務める80期は、親睦大会を盛り上げるため頑張ってきましたのでご協力をお願いします。また若者の協力により同窓会支部のホームページで、『東京白楊だより』の第1号から33号までが見られるようになりましたので、ぜひご覧ください。本日は時間の限り楽しんでいただければと思います。」とのご挨拶がありました。



同窓会歌(旧函中校歌) 斉唱



小林校長先生のご挨拶



43期神山氏の音頭で乾杯



スカイプの様子

を作るなど大盛況でした。また第69期生の間でも対話が弾み、函館特設会場にはフレッシュユナ現役在校生の登場もありました。最後に安田支部長から、函館特設会場にお集まりいただいた方々へのお礼の言葉があり無事終了となりました。この企画につきましては、中部高校パソコン研究部顧問の関川準之助先生に多大なるご尽力を賜りました。あらためてお礼申し上げます。

※屋代敏二先生は、平成23年3月に退職されました。

宴も終盤を迎え、新入会員である112期生（8名）に司会によるインタビュー形式で自己紹介をしていただきました。

続いて翌年の幹事期である第81期の松永久氏から、「我々なりにアットホームな懇親会を作り上げたいと思っています。来年またお会いしましょう。」とご挨拶がありました。

最後は全員による校歌斉唱です。第110期の澤村立氏が指揮し、エールも行いました。伴奏は島津路郎氏です。

懇親会の締めは、今回幹事役を務めました第80期生40名が登壇、米国を含む遠方から参加した5名を紹介後、代表して第80期・片瀬裕巳が三本締めを行いました。

末筆ではございますが、函館市役所からワインと観光ポスターのご提供をいただきましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

（80期・清水賢治記）

※屋代敏二先生は、平成23年3月に退職されました。



新会員へのインタビュー



次回担当81期の挨拶



応援団、110期澤村氏のエールの後、校歌斉唱

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。



80期野呂氏のピアノ演奏



スカイプに見入る会場

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

「また来年会おう。」という力強いご発声で乾杯をし、にぎやかな歓談に入りました。

第34回・東京支部 親睦大会出席者一覧

(平成22年10月30日 ホテル東京ガーデンパレス)

来賓

小林 雄司 北海道函館中部高等学校 校長
 三ツ谷富夫 白楊ヶ丘同窓会 会長
 鎌田 佳勝 白楊ヶ丘同窓会 幹事長
 鈴木 敏博 函館市観光コンベンション部 部長
 山川 泰宏 白楊ヶ丘同窓会関西支部 事務局
 荒川 伸夫 白楊ヶ丘同窓会札幌支部 支部長代理
 新谷 義克 函館西高等学校つつじヶ丘同窓会東京支部 会長
 高橋 順吉 函館西高等学校つつじヶ丘同窓会東京支部 事務局長
 檜森 兄元 函館東高等学校関東青雲同窓会 幹事長
 高橋 喜宣 函館東高等学校関東青雲同窓会 副幹事長
 桶野美千代 東京函商同窓会 副会長
 道下 佳拓 東京函商同窓会 幹事長
 那須 良明 函館ラ・サール東京同窓会 副会長
 川原 光徳 函館ラ・サール東京同窓会 副会長

昭和16年卒(43期) 神山茂郎
 昭和18年卒(45期) 田沼修二・本間秀夫
 昭和23・24年卒(51期) 三國比左男
 昭和25年卒(52期) 井上稔・小泉龍彦・長島康・福津達男
 昭和28年卒(55期) 早乙女(神)節子
 昭和29年卒(56期) 加藤正秋・津田恭一・野崎多美子・藤本一郎
 昭和30年卒(57期) 鵜島克孝・椎名三五・吉田精吾・川口(大島)千代・隈井(進藤)薫・小竹(滝田)嘉子
 昭和31年卒(58期) 小川英夫・坪田憲俊・永野巖・広田洋吉・伏見俊満・藤原正樹
 昭和32年卒(59期) 笠原静雄・坂口義弘・真船昭
 昭和33年卒(60期) 飯田幸平・上平慶一・水江彰一・北原耕太郎・紅谷弘一・松田(木下)栄美子
 昭和34年卒(61期) 相沢貞俊・菊池紀邦・佐々木住明・橋本正夫・松本允・堀内(柳生)恵子
 昭和35年卒(62期) 市丸大平・田村雅英
 昭和36年卒(63期) 中村崇・依田洋次・石崎篤子・土橋(山本)道子・福本(浅間)元子
 昭和37年卒(64期) 大野征次・佐々木(中村)京子
 昭和38年卒(65期) 小嶋正歳・名越响一
 昭和39年卒(66期) 吉井直樹
 昭和40年卒(67期) 石橋信彦・加賀幸彦・相馬研二・中川真・花海吉夫・松田幹夫・宮川憲司・安田康次
 昭和41年卒(68期) 木戸正文・白崎淳一郎・田島清光・横田依早弥・大河原(小沢)綾子
 昭和42年卒(69期) 梅田五郎・奥野政博・佐藤一廣・高木隆・梅田(上野)やよい・斎藤(三上)裕子
 昭和44年卒(71期) 加納元雄
 昭和45年卒(72期) 小林繁治・丹羽修・村上誠一・村田秀樹・若林靖史・渡部敏雄・佐野(小岡)香苗
 昭和46年卒(73期) 戸来伸一・橋本昌純・森山耐介・諸岡明・山田朗・小野田(梅本)和子

昭和48年卒(75期) 祐川伊左久
 昭和49年卒(76期) 白川正広・曾我正彦・高野勝弘
 昭和50年卒(77期) 相澤有一・小倉正信・小林広武・若生直・小野(祭主)裕子・吉田(大場)由香
 昭和51年卒(78期) 垣坂清・島津路郎・下田真靖・斯波宇司・立野泰昭・長澤一徳・松田司・宮崎恒春・若山雅行・岡部(三浦)あさ子・山内(藤島)清美
 昭和52年卒(79期) 高橋政章・樋口澄則・寄木伸治・小西(間)真由美・田中(佐藤)雅子・西田(畑野)勢津子・福島(若生)陽子・本塚(武藤)敦子
 昭和53年卒(80期) 井上明・白淵誠・大西望・岡田啓・奥山昌昭・片瀬裕巳・鎌田彰・川口剛平・川田偉知郎・倉知郁生・小林淳・近藤将仁・齊藤聡・清水賢治・鈴木薫・鈴木雅史・高橋一市・田村幸悦・土谷俊一・西谷尚久・野呂佳生・廣田耕治・古里正・本間忍・松井栄助・山口淳・横谷泰広・輪嶋薫・渡部一己・黒岡富久子・児島美也子・小林(不京)八千代・澤根(小林)みどり・塩田安子・下河原郁子・内藤(熊谷)佳子・中西(佐々木)ひろみ・野呂(山本)勢子・堀内(小松山)智江
 昭和54年卒(81期) 高橋範夫・松永久・大西(田上)美之・木田(千葉)信子・進藤(山岸)聖・山本(光里)美穂
 昭和55年卒(82期) 廣田知朗・永倉(高橋)千夏子
 昭和56年卒(83期) 山本宏・田口(新沼)志保
 昭和57年卒(84期) 江原みちな
 平成4年卒(94期) 山形リサ
 平成6年卒(96期) 長谷川賢幸
 平成7年卒(97期) 岩澤総一郎・木村暁史・桜田和彦・土田吉彦・藤原義紀・松川文弥・藤原(蝶野)倫子・南(小鹿)由紀子・山谷(田澤)琴美
 平成8年卒(98期) 高波恵美
 平成9年卒(99期) 朝緑高太
 平成13年卒(103期) 繁里わか奈・田上温子
 平成15年卒(105期) 小林秀輝・林利充
 平成16年卒(106期) 井口由紀乃
 平成17年卒(107期) 中村彰吾
 平成20年卒(110期) 川端昭平・工藤涼平・澤村立・丹波涼二・本間真平
 平成21年卒(111期) 古川成由
 平成22年卒(112期) 相原理・小田桐隆浩・佐藤千佳・菅原瞭介・鈴木洋平・寺地諒・金山里瑠・川島みなみ・佐々木笙子

出席総数:来賓14名を含め212名(敬称略)



43期～51期



52期～55期



56期～57期



57期～58期



65期～68期

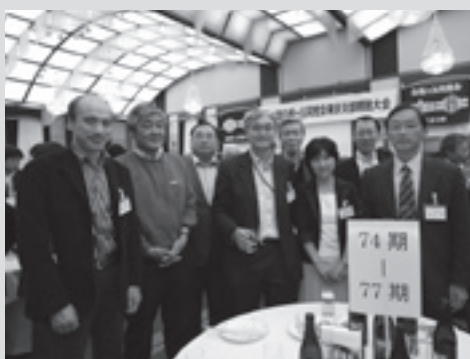


68期～71期

皆で繋いできた白揚の歴史
これまでも、これからも!



72期～73期



74期～77期



81期～93期



94期～97期



108期～111期



新会員 112期

随想



函中サッカー部『創部50年間近』

第67期(昭和40年卒)
岩間 昌夫

「函中サッカー部があと2年で創部50年を迎えようとしています。これを期に我々67期が創部した函中サッカー部について書き記そうと思います。」

最初にこの紙面を借り、毎年10月に開かれる、白楊ヶ丘同窓会東京支部親睦会にサッカーOBが集まり、大いに会を盛り上げ、かつ盛り上がりとの呼びかけがあります。同窓会は年代を越えOBが集まり和気藹々と旧交を温めるその楽しさは、縦のつながり、期という横のつながりとさらにクラブ活動という縦横軸が絆を強くしています。運動部は野球、バスケットボール、庭球ほか、文化部は合唱・美術ほか、と高校時代のクラブ活動が世代を越え同窓のつながりを密にしていることは参加される皆が感ずるところです。そこで、我々の創ったサッカー部(同好会として発足)も50年ともなれば、OBも学年5人としても

250人。そのうち関東近県の在住OB、1/3としても、70〜80人は居るのではないかと推測します。そのメンバーが函中時代そしてその後、後輩たちが脈々と部を存続するには、その時代々の努力・苦労があったと思います。ぜひ身近なところから声を掛け合い、その時々々の活動の様子戦績なども語り合いたいものです。そしてサッカー創部のいきさつについて、以下述べます。

今ではサッカーは、ワールドカップを筆頭にヨーロッパ、南米のプロリーグ、日本のプロリーグであるJリーグなど、知らない人がいないほど、野球に肩を並べるまでの人気スポーツですが、当時のサッカーは東京、メキシコオリピックでの勝利を目指し、日本代表強化にドイツからクラマーコーチを招聘、強化を図った時代でした。その代表の活躍により全国でボールを蹴る少年達の姿が多くな

り、今日の日本代表の活躍につながるサッカーの底辺が拡大しました。我々同期も中学時代サッカーを経験、学芸大付属中からは加賀、佐々木、相馬君、中央中からは中川、真船、木谷君、深堀中からは三上君、的場中から私とサッカー経験者が多数入学してきました。そしてそのメンバーは中体連の試合で会いまみえた仲間達でした。すぐ意気投合、放課後ボールを蹴ろうということになり、経験のなかつた伊丹、齋藤、滝川君など数名次々と参加。皆で話し合い正式に学校に部として認めてもらおうということになりました。さあ、夫々の役割を決めチームの運営、部として認めてもらうための活動開始です。顧問先生には学生時代サッカー経験のある、丹治先生にお願ひし、突然の申し出にもかかわらず快諾を得ることができ、学校からは当初同好会として認めてもらうことが出来たのです。練習の指導者はいず、中学時代の経験を活かし夫々が創意工夫、野球部とハンドボールコートの間で練習開始。ボールが無ければ始まりません、そこで中学時代から使用の個人のものを持ち寄り、用具のゴールポストはハンドボールが11人制から、6人制に移行の時期でありそれが使えませんでした。部が出来たからには、今度は



公式試合出場が次の目標となりました。そうこうして少しずつ活動に形が出来かけたころ、数学の浅間先生が突然練習中のグラウンドにこられ、当然サッカーなどやっていないで、勉強しろと叱られると思いきや、なんと革張りのボールを3個も寄贈してくださったのです。先生は、かつて函中にラグビー部やサッカー部があった時代を知っておられ、われわれのサッカー部の再興を喜んでくれたものだと思います。帰省のとき、一度サッカー談議も思いましたが、なんとサッカーに明け暮れ数学の先生は敷居が高く機会はつくれませんでしたが、このことは我々にとつてどれほど力強く、また希望を与えてくれたことか知れません。

3年には念願の公式大会、高体

連の函館地区大会にも出場。ユニホームは各自、白のシャツを自宅で赤く染めて揃え、背番号を縫いつけたものでした。(こんなこと我々はできっこないわけですから、母親たちは何と思つてやってくれたのだろうか?)それでも卒業時には、2年、1年と下級生の入部もあり全学年そろいチームとしての体裁がととのい、これで部として大丈夫だと思つたものでした。これらのことは、その後進学したものの、就職したものと夫々進路は違いましたが、健康で今年65歳を迎える、これまでの人生にどれほどの貴重な体験となったか知れません。またサッカーを通じて得た知己の有難さは計りしれないものがあります。50年の節目を東京同窓会に年代を越え集まりサッカー談議、旧交を温めて見ませんか。

お知らせ コーナー 1

図書紹介(同窓生の著書)

「時に海を見よ」

—これからの日本を生きる君に贈る—
第65期(昭和38年卒) 渡辺憲司 著
双葉社/1,260円

卒業生へのメッセージが「感動的すぎる」とツイッターで全国に広まった話題の校長先生が新たに書き下ろす
“3.11後を生きるための言葉”

～18歳の君へ。そして、かつて18歳だった全ての人へ～

同期会だより

第45期翠楊会 田沼修二記

昭和18年に卒業した同期の会を「翠楊会」と称し、今なお函館、札幌、東京で毎年集まっています。今年も6月22日にNHKの青山荘で東京支部の総会を開いた。

参加者10名は来年米寿を迎えるが、ピアノのリサイタルに精進する者、年一万キロを走るドライバ―など、近況と中学時代の思い出話に花を咲かせ、来年の再開を約束して散会した。

第60期三・三会 飯田幸平記

東京支部同期会便り

昭和33年に卒業した我々7組374人は函館、札幌、東京に夫々三・三会の支部の同期会を作り、東京では原則1年に1回の例会を開いています。

今年も平成22年10月16日(土)お昼12時30分より、長澤さんのご厚意による東京ガスの四谷クラブで開催され、東京支部関東地区と、大阪、静岡、仙台から駆け付けたメンバー計29人が集まりました。

受け付けでは、会計を担当する松田さん(旧姓木下)、北原さんが皆を迎えてくれました。

会は軽妙な言葉で皆をドッキリ、笑わせる紅谷さんの司会で始まりました。幹事責任者内藤さんの開催挨拶、乾杯後は和やかな歓談に移りました。最初に同窓会の東京支部の発足と三・三会発足にご足労いただいた北原さんの世話役退任の挨拶がありました。一身上の理由とは言え参加の皆さまも拍手で感謝の気持ちを表しました。

四席に別れたメンバーはお互いに消息不明の同期生を案じたり、更には、親、兄弟、配偶者などの家族の介護の話題が出ました。介護の話題は尽きない話になりそうですが、何はともあれ、この会に参加できただけでも幸せと思えました。

現在の関心事や近況報告に続いて、参加者の話題提供に移り、トッパッター小浜さんから長年こたわってきた技術を研究や製造現場で役立たすべく悪戦苦闘している状況を伺いました。古希になったからと守りの生活に関心が行き

がちなわれわれの頭をガツンとやられた思いでした。まだまだ熱い血をたぎらせている仲間を学びたいと思えました。

遠路参加の大山さん、門脇さん(旧姓駒井)、栃沢さんからはそれぞれ大阪、仙台、日立の近況について話がありました。何事も悲観的になっていくこの時代こそ、関西人のノリの文化が必要かと思うのですが、なかなかそうはなっていないとのことでした。同様に東北、日立の方もどうも景気がよくないそうで残念です。ただお話をいただいた三人はみな元気澆刺で、大いに安心し力強く感じた次第です。

久しぶりの参加の中沢さんから、参加の皆さんの顔を見ても学生時代の顔と一致せず困ったとのことでした。しかし、ちっとも心配は不要で話しかけたらアツという間に高校時代にタイムスリップでした。

思うに、われわれは終戦後空腹から始まった新制小学校に第一期生で入学し、お金はなかったものの親や先生に叱咤激励されながら夢を大いに膨らませた高校生活を

送り、高度成長を共に歩んだ戦友同士であり、これからの生き方も余り悲観的にならずに、特にこれから未来を託す若者に対して、我々のこれまでに得た知識と経験を伝え、大いに期待していきたいと思えます。

美味しいごちそうと旨いお酒をいただきながらの2時間半の歓談はアツと言う間に終わりました。再会を約束して中締めをした後はクラブのご厚意により会場使用が延長され、時間の余裕のあるメンバーが残って二次会となりました。お茶やまだ飲み足りない人はアルコールを入れて、皆さんとの歓談の余韻を楽しみ、午後4時過ぎに散会となりました。

第63期午未の会 山崎良英記

六十三期会卒業五十周年記念大会開催報告

7月31日から8月2日の間63期の卒業五十周年を記念して同期会が函館で開催され、約100名の仲間たちが集い、二人の恩師をお迎えしてなごやか且つ盛大な集まりを持ちました。今回の記念大会



株式会社宮川憲司建築事務所
Environmental Planning & Design

サンウッド松清

<http://www.k-miyakawa-arch.co.jp>



志丸会
東京支部
第67期 昭和40年卒業

午未の会
昭和36年卒業・63期

～卒業50周年～

絆



は2年前から企画され、在函館のメンバーを中心に札幌や東京のメンバーも加わり色々な企画を考えて準備し開催の運びとなりました。この準備のため幹事は16回に及ぶ打ち合わせを重ね、きめ細かく準備して開催の日を迎えました。

「よみがえる青春、確かめ合う友情、強めよう絆、わが故郷函館の地で」を合言葉に開催されました。

7月31日は湯の川の市民会館のホールでの開会式に始まり、同時に午前中から準備した記念の展示会(思い出の写真、記事、会員の作品展示など)も三日間開催されました。その後懇親会の会場である函館山のロープウェイの山頂のレストランに場所を移し、6時半

からパーティーが盛大に開催されました。80歳を越してもお元気な恩師お二人(加藤正之先生、吉田信一先生)を、幹事の苦心のアイデアである全員での「仰げば尊しの合唱(意外と纏まった)」でお迎えして、元アナウンサーの旧姓柏直子さんの司会で懇親会は始まりました。まずこの50年の間に鬼籍に入られた学友40人と、東日本大震災の被害者の皆さんへの黙祷を行い、ご冥福をお祈りしました。

同期会会長(渡辺親夫さん)と今回の事務局長(編野重治さん)の挨拶や、これまでの準備状況や日程の報告があり、両先生のご挨拶と乾杯の首頭を頂き会は始まりました。

時々霧にかすむ夜景も見事で花を添えてくれました。卒業以来初めて会う人も沢山居て、幹事心づくしの卒業時の写真入の名札を頼りに話を始めましたが、クラス別の写真を撮るあたりにはすっかり昔に戻り、楽しい時間を過ごしました。あちこちのテーブルを回り、一人でも多くの友人と話しているうちにお開きの時間となり、全員で校歌を四番まで全て斉唱し、霧に煙る山頂で記念写真を撮って、一次会は無事終わりました。ロープウェイで下に降り、これも幹事のアイデアで二次会会場直行バスも仕立てられ、遅くまで旧交を温めました。

8月1日は自由参加のゴルフと市内観光が行われて、皆さん楽しい時間を過ごしました。

8月2日は協賛企画として、市民会館小ホールで藤間流の藤間扇(旧姓天野節さん)の華麗な日本舞踊と、国井しゅうめいさんのピアノ弾き語り、旧姓叶加奈子さんの朗読などで楽しみました。その後閉会式を行い、展示の片付けなどを行って解散しました。単なる飲み会と違い、幹事が色々工夫してくれたおかげで3日間いろいろな形で懇親を図ることができ、参加者一同に幹事に感謝感謝の記念大会でした。

8月1日は自由参加のゴルフと市内観光が行われて、皆さん楽しい時間を過ごしました。

8月2日は協賛企画として、市民会館小ホールで藤間流の藤間扇(旧姓天野節さん)の華麗な日本舞踊と、国井しゅうめいさんのピアノ弾き語り、旧姓叶加奈子さんの朗読などで楽しみました。その後閉会式を行い、展示の片付けなどを行って解散しました。単なる飲み会と違い、幹事が色々工夫してくれたおかげで3日間いろいろな形で懇親を図ることができ、参加者一同に幹事に感謝感謝の記念大会でした。

第67期 志丸会 西堀元朗 記

金沢に同期生ロビンソン(大脇尚子)を訪ねる旅

「金沢は余り晴天に恵まれないのですが、皆さんはよほど日頃の行いが良いんですね。」と言われた去年の金沢旅行。本当日頃の行いは別にして、11月初旬は旅行には最高の日和でした。

遠くに住んでいる同期生を訪ねる志丸会の旅行企画。遠くの友をダシにして、皆で「歴史を訪ね、友と楽しい酒を飲もう」と、中国に3回、アメリカに1回、四国に1回、そして今回の金沢。志丸会の旅行の特徴は、参加者が全国からバラバラに集まって来



ること。東京方面からは車2台、函館からは飛行機組と列車組、札幌からは富山空港経由の人と羽田空港経由の人、そして更に上海から小松空港へ飛んで来た人も。

金沢の宿は近江町市場近くの旅館「大森」。交通至便で料理もおいしく、料金もリーズナブルでした。初日は、各地から集合して、まずは宴会。

翌日は、終日金沢市内の観光です。観光地巡りは路線バスで主要なスポットを回る「城下まち金沢周遊号」を利用。昔は遊郭であった、ひがし茶屋街や主計茶屋街、兼六園、金沢城跡など定番の観光地と、石川県立伝統産業工芸館を回りました。

兼六園は、ガイドさんをお願い

株式会社イコー建設
一級建築士事務所

代表取締役 **佐藤 一廣** (69期)

〒165-0033東京都中野区若宮1-28-1 野方会館2F
電話: 03 (3223) 0168(代) FAX: 03 (3223) 0658
mail: k-sato@f-rn.co.jp

よいよい会
(昭和41年卒業 第68期)

例会やっています。毎年2回、1月と6月に開催。ご出席お待ちしております。(案内はメールで配信)

1月: 第三土曜日、H24/1は寄席と浅草グルメの予定
6月: 第二土曜日、未定

(お問い合わせ)
木戸正文: mkidodes@docomo.ne.jp
大河原綾子: pharmacist-ayako@docomo.ne.jp
白崎淳一郎、及能誠一郎



いし案内してもらいました。一昨年を訪ねた栗林公園(高松市)もそうですが、歴史のあるお庭はガイド付きに限りませう。成巽閣(殿様のお母様のお住まい)では、庭師さんが雪吊作業中で、松の剪定の極意などを教えてもらいました。

石川県立伝統産業工芸館は県内の伝統工芸品を幅広く展示してあるところ。九谷焼、山中塗、輪島塗、加賀友禅など、見ごたえのある品々が展示されていました。

さて、金沢といえば名物「治部煮(じぶに)」。名前の由来は、その昔、治部職にあった石田三成公が好んだところから名付けられたという説と、鴨肉とすだれ麩と野菜を、小麦粉でとろみをつけた煮汁で「じぶじぶ」と煮るからとの説があるようですが、さて本当は???

今回の旅行のメインイベントは、金沢を拠点に全国で活躍するヨガ講師の尚子さんを、スタジオに訪問すること。当初は見学だけの予定が、行ったら靴を脱がされ、全員ヨガマットに横にされ、レッスンを受けることになりました。この日は日曜日ですが、我々のお休みだったので、2人の若い女性のスタッフも出てこられて、おじさん・おばさんの硬い心と身体を柔ら

かくして頂きました。お陰さまで、今回も楽しい旅になりました。尚子さん、ありがとうございます。

第68期 よいよい会 木戸正文記

今回の大震災で被害にあわれた皆様へは心よりお見舞い申し上げます。

よいよい会は、毎年2回(1月と6月)首都圏在住者を中心として同期会を開催している。今年度1月例会(新年会)は大崎のフレンチレストラン「ジャポナイズ」で1月22日に開催した。初出席は田島清光君。久しぶりに西野翠さんが出席、本人から長年取り組んできた「維摩経」の梵文和訳が完成し、出版したとの報告があった。

六月例会は毎年第2週の土曜日と決めているが、今回は6月18日に奥高尾の「うかい鳥山」で開催した。宴会が始まるころから雨となったが、奥高尾山中に草葺屋根の古民家を配した「うかい鳥山」のロケーションが素晴らしく、また梅雨時のそぼ降る雨で濡れた新緑が色鮮やかに映え、お料理を一層おいしくのびにしてくれた。今回の初出席は鈴木純一郎君、那須塩原から駆けつけた。近況報告では丸山君から、今



後、懸念される病気に心臓病と脳関係(脳卒中、脳梗塞)がある。これは突発的に表れるので、

いつもと違うなと感じたら、すぐに病院に行くこと、いずれも3時間以内が大事。現代医学は素晴らしく進歩しており、心臓病などステントを入れると夕方には退院できる程、などのアドバイスがあった。また、西野さんからは好きだという三好達治の詩の一篇が唱えられた。

三好達治「整のうへ」(「測量船」) あわれ花びらながれ

をみなごに花びらながれをみなごしめやかに語らひあゆみうららかな登音空にながれをりふしに瞳をあげて翳りなきみ寺の春をすぎゆくなりみ寺の薨みどりにうるほひ廂々に風鐸のすがたしづかなればひとりなるわが身の影をあゆまする整のうへ

また半年後に、皆の笑顔を見られることを祈りつつ中締めとした。

来年度1月例会は「浅草散策、寄席とグルメ」に決定しました。ぜひご参加いただきたくお願いいたします。なおご案内はメール登録いただいている方に発信をしています。メールが届いていない方は木戸宛で連絡ください。(cod10806@nifty.com)

第71期 加納元雄記

一期一会

同期会の案内に、「これからは『一期一会』の精神で」と書いたのがいけなかったのかも知れない。

そう書いたのは、同期の集まりには必ず顔を見せて座の中心にいた小倉清君(8組)が、60歳になつたのを期にご家族が待つ函館に帰りご両親の介護に専念されると

一級建築士事務所 沖崎建築設計事務所 沖崎 剛 第69期 〒182-0024 東京都調布市布田1-26-12-319 TEL:042-488-3985 FAX:042-488-3986 e-mail:okizaki.takeshi@nifty.com http://homepage3.nifty.com/okiz/



第71期東京地区同期会

四季を彩る至福の空間へ...



株式会社 計画機構一級建築士事務所 ■建築設計・コンサルティング

alpha Conservatories Ltd. ■ガーデンコンサルティング ■英国コンサバトリー設計、施工

株式会社 アルファコンサバトリーズ 創業1874年 AMDEGAコンサバトリー輸入総代理店、B.D.G.コンサバトリー輸入代理店、建築設計・ガーデン設計 180-0022 東京都武蔵野市境1-22-9 ツインプレックスSA TEL.(0422)55-7940(代表) FAX.(0422)55-7960 http://alpha-it.co.jp/ E-mail: info@alpha-it.co.jp 代表取締役 一級建築士 山田 朗 (73期)



か、私自身永年勤めていた会社を
終えて同期会の幹事役を今後も続
けられるかどうか怪しいと言っ
た、メンバーの状況変化を踏まえ
てのもので、それ以上深い考えが
あつてのものではなかった。
しかし、中谷純一郎君(10組)
の奥様から「夫は昨年12月に亡
くなりました。」との返信、更に
会の数日前には10組の担任だっ
た柴田隆一先生(第51期)の計
報が入り、かつてわざわざ函館
からお出で下さった先生と愉快
な一夜を過ごした東京地区71期
のメンバーは、大いに動揺した。
加えて当日の参加者から「函館

情報」として、菊地恒孝君(7組)
が亡くなったことが告げられた。
菊地君は都内に住んで永年糖尿
病と闘っていたのだが、同期会
の大会には毎年欠かさず卒業ア
ルバム持参で参加していた。昨
年も、数少ない出席者の一人と
して、いつもの悠揚迫らぬ態度
でそこにいたのだ。
そのようなわけで、6月25日の
同期会大会は、急遽この3名を始
めとする亡くなられた同期関係者
への黙祷から始まった。奇しくも
この日は、柴田先生の初七日に当
たる。
恒例の近況報告の口火を切つ
たのは、仙台市に隣接する富谷
町から来てくれた小泉光君(8
組)。「周りには、家族も、財産
も、住まいも、職も、何もかも
失った人が沢山いる。これまで
見えていた街の風景が全て消え
去り、瓦礫の他に何も無い、ど
こまでも見通せる景色に突然変
わった。このような中で、『頑張
ろう!』とか『元氣を出そう!』
といった言葉は、虚しい。」と
いう、震災をその場で体験した
者でなければ発することが出来
ない、重い言葉であった。
二次会には8組担任の水江彰一
先生(第60期)も、授業を終えた
後に駆け付けて下さった。「今年
は、60期の私が71歳で、71期の君
たちが60歳という年回りですね。」

と話される先生は、未だに大学の
英語講師とゴルフは現役だそう
で、どちらが60期でどちらが60歳
か分からないほどの若々しさ。私
たちもこの尊敬すべき師・良き先
輩を見習わなければならないのだ
が、さて、10年後にどれだけの人
が先生のような若さを保ってい
れるか…。
今回の会場の三菱重工横浜ビル
をセットしてくれた石橋秀樹君
(8組)は、来年も同じ時期の予
約を入れてくれている。
私は、これまで同期会のマン
ネリ化と出席者の減少に悩んで
来たが、もう気にしないことに
した。毎年同じような場所と同
じようなことをやっているとし
ても、今年のこの話題を誰が予
想できたか。毎年顔を見せる友
が欠けて行くのはやむを得ない
のだが、これが最後になると、
誰が想像できるか。だとすれば、
前年と同じような会であること
を喜ぶべきなのではないか。前
年見た顔にまた出会い、お互い
の無事を喜び合う、そこに数年
ぶり或いは数十年ぶりの仲間が
加われれば、その喜びは一層増す。
前年と同じ話題の蒸し返しであ
ったとしても、それは今年のよ
うな前代未聞の恐怖や悲しみに
比べれば、よほど歓迎されるべ
きものである。
一見同じようなメンバーが同

じような話題に終始している会
だとしても、「次回」も前回同様
に開かれるかは誰にも分からな
い。だから、今日集まったこと
の幸せを噛み締めて、みなとみ
いを後にした。
第72期 渡部敏雄 記
「これからが30年の人生のスタ
ートと考えよう。」
ビデオ映像で語りかけるのは
社会科担当だった菊谷栄一先生。
「知から情へ、美しいものへの憧
れを生き甲斐に。土いじりでも、
絵を描くことでも、歌うことで
もいい、喜怒哀楽を全面的に出
して、挑戦、夢を大切に。」傘寿
を超えた恩師の言葉に、満員の
会場からは期せずして盛大な拍
手がわきました。
私たち72期生(昭和45年卒)
は還暦を記念する同期会を、平
成23年5月21日(土)浅草で開
催しました。
当日は、まず日の出棧橋に集
合した24名が午後2時半発の水
上バスで浅草へ。雲ひとつない
晴天のもと爽やかな風を受けて
の隅田川めぐりは、ちよつとし
た修学旅行気分。
午後5時、会場となった隅田
川沿いの地上百メートルのレス
トランに顔を揃えたのは、札幌、
函館、仙台、神戸などからの参

これからが30年の人生のスタート!!

72期東京同期会は還暦を機に毎年定例開催とします。

～定期同期会：毎年5月第3土曜日 17時開宴～

◎次回日時：2012年5月19日(土)17時より ◎会場ほか：後日ご連絡します

〈広告協賛〉新宿御苑前、渡部総合法律事務所 電話 03-3355-5415(代) 72期生 東京幹事



加者も合わせて56名にもなっていました。
 当日の企画の目玉が、卒業時の担任教師のビデオ映像。幹事の面々が函館、札幌に飛んで、冒頭の菊谷先生や、英語担当の上野茂樹先生のインタビュ映像を作成したのですが、奇しくもそれが3月11日の東北大地震当日という廻り合わせだったのです。
 さらに、化学担当の広川駿治先生は、「ビデオじゃ物足りない」と、遠路はるばる会場まで足を

運んでくれました。現役当時と変わらない背筋をシャンと伸ばした広川先生の生スピーチに参加者は大感激。
 国語担当の米澤三郎先生は、撮影日程が合わなかったため手紙での参加。「皆の瞳は輝いていたなあ。君の瞳は百万ボルトくらいかな。」というメッセージに、誰もが制服姿のあの頃を思い返していたことでしょう。
 元応援団員の小林繁治君の、言葉では表現しがたい絶妙の中心締めパフォーマンスに全員が笑いこぼる頃には、陽もとつぶりと暮れていました。
 二次会は、45名が川向こうの屋上ラウンジに移動。ここでのイベントは、加藤泰、笹川浩史、札幌から駆けつけた會田雅樹の三君が白楊祭当時のフォークバンドを再現。「イムジン河」からはじまったコンサートは、「遠い世界に」「風」「あの素晴らしき愛をもう一度」「若者たち」へと進むにつれて、全員肩を組んでの大合唱に。同年代と覚しきピアノ伴奏者やウエイターまで一緒に歌い出し、会場ごと一九七〇年にタイムスリップした夜でした。
 いまどきの還暦は、まだまだ若い。私たちはこの日、皆で肩を組みながら30年の人生のスタートを切ったのです。

- 物故者(敬称略)**
 謹んでご冥福をお祈りいたします。
- 東浦 義雄(34期・昭7年卒) 平成22年11月逝去
 - 阿部海三郎(43期・昭16年卒) 不明
 - 井筒 吉彦(43期・昭16年卒) 平成20年7月30日逝去
 - 谷 淳一(43期・昭16年卒) 平成19年7月19日逝去
 - 吉江 彰(43期・昭16年卒) 平成21年9月26日逝去
 - 池田 隆治(45期・昭18年卒) 不明
 - 工藤 孝(45期・昭18年卒) 不明
 - 桑山 龍平(45期・昭18年卒) 不明
 - 小林 讓(45期・昭18年卒) 不明
 - 佐藤 誠悦(45期・昭18年卒) 不明
 - 土田日出男(45期・昭18年卒) 不明
 - 村上 國雄(45期・昭18年卒) 不明
 - 安井 達也(45期・昭18年卒) 不明
 - 角谷 八朗(53期・昭20年入) 平成21年10月11日逝去
 - 井上 秀夫(54期・昭27年卒) 不明
 - 甚野 慶右(54期・昭27年卒) 不明
 - 須藤 紘一(62期・昭35年卒) 平成22年11月逝去
 - 中谷純一郎(71期・昭44年卒) 平成22年12月20日逝去
 - 菊地 恒孝(71期・昭44年卒) 平成23年2月逝去

*年会費払込票及び大会出欠葉書きにて、ご家族からお知らせのあった方です。

第76期東京地区同期会

(昭和49年卒業)

「あす76会」ゴルフコンペ(1月、4月、7月、10月)
 同期の皆さまのご参加をお待ちしています。

火ばしら会

東京支部

〈昭和42年卒業・69期〉

81期生、東京に集合!

同窓会いざ! 2次会も!

29日14:00~東京ガーデンパレスへ...
 同窓会で再会しましょう!
 幹事役を終えたら、打ち上げは東天紅で!
 そうそう、今年はホテル1棟借り切っちゃいました
 \ (^o^)/ 地方からの参加も大歓迎!!
 ♪ オールナイトで、話しましょう、飲みましょう♪

第35回親睦大会幹事81期生の2次会案内
 日時: 平成23年10月29日(土)
 18:00~20:00
 場所: 東天紅 東京国際フォーラム店
 東京都千代田区丸の内3-5-1
 東京国際フォーラムガラスホール棟7階
 電話: 03-3211-1015

3次会&宿泊先案内
 場所: スクワール麹町
 JR、東京メトロ四谷駅前21:00頃~
 電話: 03-3234-8737

〈平成☆白楊同窓会のお知らせ〉
 若手代を中心に様々な世代の函中生が集まる自由奔放な同窓会です(笑)
 次回は2012年新年会@新宿を予定。
 興味をもった方は 105期 小林 までご連絡ください!
 Mail: la.belle.equipe.h.k@gmail.com

紙面への広告募集!!

「東京白楊だより」第35号・2012年8月発行予定

お問い合わせ・申し込みは kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp

会員短信



平成22年9月以降の会費の振替用紙のメッセージから

●椿田 和彦 (39期昭和12年卒)

函中は私達人学以前は、漱石の坊ちゃんの松山中学の様なヤンチャな学校で、退学になった方もあったと聞いています。2年生の時、電車の定期券を買いに行くと、うっかり()遺愛女学校の校庭を横切っていた処を先生につかまり、散々叱られました。私は気が小さく決して軟派ではありません。

●高梨 良雄 (39期昭和12年卒)

御トシ91才になりました。この世にお別れるのは、まだまだ先の様です。老妻とともに兎に角幸せです。

●今井 清 (40期昭和13年卒)

「東京白楊だより」第33号ありがとうございます。学校と皆様の様子を懐かしく拝見しております。

●武内 良一 (46期昭和19年卒)

永年同窓会活動が続けておられることに敬意を表します。体調不良で会合には出席できません。体調不良で会合には出席できません。

●小熊 勇司 (52期昭和25年卒)

後期高齢者ながら、未だ同世代の心身不自由な方々を、医師としてお世話させて頂いております。皆様のご健康を祈っております。

●東川 正秀 (52期昭和25年卒)

私達の同期会は「玄羊会」と称し、本年、卒業60周年と傘寿の旅を行いました。全国より50人を越す同輩が函館に集まり、旧交を温め

ました。皆元氣一杯でした。米寿まで大丈夫。これからもよろしく。

●長島 康 (52期昭和25年卒)

幹事諸兄姉へ。いつもお世話様です。今後共よろしくお願い申し上げます。

●高野 保 (52期昭和25年卒)

出席はなかなかできませんが、リハビリ中心の生活をしています。ご心配をおかけしています。

●漆崎 雄一 (53期昭和26年卒)

まだ、現役で働いております。10/30はイベント開催多く、多忙の日に大会には欠席です。皆さんによろしく。

●栗崎 健一 (55期昭和28年卒)

卒業年次で上の方から数えるのが早くなり複雑な気持ちですが、元気でここまで来られた事に感謝すべきでしょう。同郷の方達と年に一度打ちとけて歓談できる機会を持つのは有難いことです。

●早乙女節子 (55期昭和28年卒)

木造の校舎で、1年の担任の杉江先生の元で元気がばい学んだ中部高校。50年以上経て出席(同窓会)します。楽しみにしています。

●藤本 一郎 (56期昭和29年卒)

本年も皆様とお目にかかれるのかなーと思つと歳を忘れた気持ちです。

●塚本 弘子 (56期昭和29年卒)

「白楊だより」お送り頂きありがとうございます。

●澤田 経子 (56期昭和29年卒)

「東京白楊だより」で冬期の活気あふれる和みに温かい平和を感ずり居ります。お陰まで元気で地域のボランティアに参加を続けています。

●吉田 精吾 (57期昭和30年卒)

昨年は函館で同期会を行ったが(小グループで)、今年は東京で9月8日に開催。その他にも年に数回、囲碁、麻雀、旅行などで「壮事力」を発揮しつつ、心身のリフレッシュに努めている。

●寺田 姉生 (57期昭和30年卒)

いつもお世話になります。

●小竹 嘉子 (57期昭和30年卒)

毎年楽しみにしております。趣味の絵キルトに夢中です。どなたか交流しませんか？

●川口 千代 (57期昭和30年卒)

「東京白楊だより」楽しく拝見いたしております。私ごと、この3月で約50年間続けた大学勤務を終了し、ようやく自分の時間を持つようになりました。57期は大変チームワークよく、折にふれ、よく集まります。同期全体は勿論、地域単位でも声をかけ合い、年間何回となく少人数でも集まる機会をもち、幸せです。今年も東京支部大会を楽しみに。

●佐藤 孝 (57期昭和30年卒)

同窓会活動に本参加できずに迷惑をかけた。今後本参加が難しいので、勝手ながら本年度限りで退会させていただきます。

●山本 哲也 (58期昭和31年卒)

東京支部のお働き、会報「東京白楊だより」感謝いたしております。ご健勝をお祈りいたします。

●唐沢フミ子 (58期昭和31年卒)

いつも「東京白楊だより」を楽しみに致して居ります。会費振り込みしますのでよろしくお願い致します。

●桶 直義 (59期昭和32年卒)

ご案内ありがとうございます。親睦会の日はず定があり出席できませんが、盛衰を祈ります。

●伊藤 光司 (59期昭和32年卒)

東京支部の益々の発展と活動に感謝します。

●古川 セツ (59期昭和32年卒)

72才でまだ日本野鳥の会で週3日働いております。いつまでも高山植物や高山性の鳥も見たいものです。2010年は雨竜沼湿原へ初めて行き、感激して来ました。

●飯田美津子 (59期昭和32年卒)

毎年同窓会便り、ありがとうございます。いつの間にか沢山の後輩の方々が増え、世の中の中心になって活躍しておられる御様子、嬉しく思います。私も若く若い女性の内に合は出席すれば良かったのに。早や六度目の干支。永年続けて来た裏千家茶道で「正教授」の資格をいただき、今後も後輩の指導に励みたいと思っております。

●松谷 克 (59期昭和32年卒)

本年6月社長を退任し、会長を拝命しましたが仲々業が出来ません。いつも出席出来なくて申し訳なく思っております。皆様によくしてくお伝え下さる。

●宮川 満子 (60期昭和33年卒)

いつも大変お世話になります。心をこめた総会の企画を毎回楽しみにしております。出来ればイブを多くして下さいとありがたいます。

●岩崎 英子 (60期昭和33年卒)

色々お世話になります。

●内藤 尚 (60期昭和33年卒)

今年は先約があり欠席いたします。これからも休日の昼間の開催ですが、平日夕方と交互の開催になると、出席層が拡がるように思います。

●岩淵 安隆 (60期昭和33年卒)

函館を舞台にした映画「アカシア」海蔵市叙景を見ました。函館の街のざわめきと生活する市井の人々の今がよく描写されていると思いました。かつて、多くの映画館があった街で、よく映画通いをした時代、それが今に続いているのか懐かしく思っています。

●佐々木住明 (61期昭和34年卒)

「東京白楊だより」有難うございました。役員、幹事の皆様お世話様です。同窓会の益々の発展を願っております。

●金子 公彦 (61期昭和34年卒)

大へん申し訳ありません。欧州旅行と重なり、親睦大会へは欠席とさせて頂きます。ご出席の皆様、ご来賓の皆様方へ宜しくお伝え下さい。

●石月 言成 (61期昭和34年卒)

古希という節目の年を迎え、高校は都立で欠席となりましたが、大学、会社関係で企画推進しました。「白楊だより」からは嬉しい名前と若い人の躍動する言葉と姿から元気をいただいております。勿論、諸先輩からも、ありがたくなります。

●市丸 大平 (62期昭和35年卒)

元気です。サイクリングで相変わらず利根川のまわりを走っています。

●鎌形 寛子（62期昭和35年卒）
会報楽しみにしております。

●松本 英子（62期昭和35年卒）
「白楊だより」ありがとうございます。田村さん、三浦さん、お役目御苦労様です。

●中谷 建司（63期昭和36年卒）
いつも会報有難うございます。宮崎に住み着いて35年。元気に頑張っております。通信費とついで利用させて。

●浜岡興一郎（63期昭和36年卒）
退職後の夢であった教育ボランティアも9年目に入り、今年は北本市の小学校放課後子ども教室で学習アドバイザーとして週2日、2学期からはさいたま市の小学校で理科支援員として週3日勤務しています。子ども達の感性は素晴らしい毎日刺激を受けている次第です。

●岡本 馨（64期昭和37年卒）
ジム通いとゴルフで身体の老化防止をしていますが、頭の老化防止は今ひとつです。

●関 明美（64期昭和37年卒）
幹事の皆様、ありがとうございます。函館をなつかしんでいます。

●田中 公子（64期昭和37年卒）
会報をいつも楽しみに拝読しています。先日帰函の折、箱館奉行所へ行ってきました。当時そのままに再建した建物はおもしろい、歴史的背景などよくわかる展示でした。函館の誇る新名所になるのをうれしくなりました。

●能澤 和子（64期昭和37年卒）
いつも「白楊だより」をありがとうございます。ここ数年、法要の多い年回りで、田舎への往復を繰り返しております。

●日野川勇一（64期昭和37年卒）
親睦大会に欠席で申し訳ない気持ちと、出席者の皆さんへのガンバレの気持ちを込めてエールを送ります。ライオンズクラブや、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会の活動をしている関係で、都合の良い日が少ないです。

●前田 英夫（64期昭和37年卒）
ロシア、インド、中東へ出張と重なる為、親睦大会には出席できません。

●二宮 信子（64期昭和37年卒）
会報（33号）で、同期の浅野公子さんの寄稿を拝読し、とても嬉しく思いました。次の機会には出席したく思います。

●栗原 訓子（65期昭和38年卒）
いつもお世話下さり、ありがとうございます。私事何かと忙しく参加出来ず残念ですが、今後共々どうぞ宜しくお願い申し上げます。ご盛会をお祈り致します。

●上原 勝雄（66期昭和39年卒）
幹事の皆様、いつもありがとうございます。近所付き合いが増えて少し忙しくなりましたが、幸い元気で居ります。

●新谷 真秀（67期昭和40年卒）
安田康次東京支部長、再任ご苦労様です。ご健康に留意され、ご活躍されますことを祈念申し上げます。

●笹森 健一（67期昭和40年卒）
会報ありがとうございます。これから参加するのよこします。

●田中 恵子（68期昭和41年卒）
「東京白楊だより」今年も嬉しく拝読させて頂きました。会報を通じて、いつも皆様から元気を頂戴しております。これからも皆様、

お元気で活躍の程を！

●重松 健二（68期昭和41年卒）
囲りは皆さん定年を迎えて優雅なリタイア人生を送っている人が多くなりましたが、当方は未だ現役でバリバリ社会をやっていきます。

●田島 清光（68期昭和41年卒）
初めての参加ですが、同期の方との再会がとても楽しみです。後輩の梅田五郎君とも是非懇談したいと思っております。

●奥野 政博（69期昭和42年卒）
現役引退をして早や1年10ヶ月、相変わらずウォーキングや平日の旅行を楽しんでいます。同窓会も若手の後輩達のユニークな企画を毎回楽しみにしています。経費削減の一つとして、開催案内等Eメールを積極的に導入してはいかがですか？個人情報問題もBCC送信するところスグ軽減します。大学の同窓会（関東支部）もメール活用で通信費が大幅に軽減できています。

●河村 裕（69期昭和42年卒）
定年後再雇用2年目の身ですが、「第二の人生をいかにデザインしアレンジし、実践していくか、目下人生最大の悩みに直面しております。

●斎藤 裕子（69期昭和42年卒）
「白楊だより」楽しく拝読しました。編集に関わった皆様に感謝です。今後も同窓会がより良い場になる事を祈ります。

●瀬戸 武一（69期昭和42年卒）
年をとると、故郷や学生時代が無性に懐かしくなりますね。今後ともよろしくお祈り致します。

●岩切 省三（69期昭和42年卒）
遅くなり申し訳ありません。皆様のご健勝をお祈り致します。

●林 千恵子（69期昭和42期卒）
会報33号に掲載の記事「ハリファクス」関連ですが、集英社「フアンの愛情」(モンゴメリ作) / 松本郁子・訳) に、ダルハワジー大学、要塞、松林などが載っています。一度この街の「写真展」を開催して戴けたら嬉しいです。

●和田 芳三（69期昭和42年卒）
この6月末で退職し、のびのび元気に暮らしています。

●小坂 繁（70期昭和43年卒）
皆様お元気のことと思います。現在主人はトルコ勤務で、今回は残念ですが欠席させて頂きま

●板垣 裕則（70期昭和43年卒）
出遅れ寛恕の程。

●目黒 容子（71期昭和44年卒）
御世話をおかけして、ありがとうございます。

●高橋ひろ子（71期昭和44年卒）
いつもご案内ありがとうございます。今年度で退職です。皆様のご健康をお祈りします。

●川村 哲雄（71期昭和44年卒）
平成22年度の同期会を6月19日「ホテルグランプンフィンック」LE DAVANで開催しました。参加者は10年前の40名をピークに年々減少傾向をたどり、今回は15名と少人数の同期会でしたが、今年度還暦を迎える我々71期の同期会を「来年は盛大な還暦祝い会にしよう」と誓い合う宴となりました。

●竹内 隆（71期昭和44年卒）
ご苦労様です。10月30日は姪の結婚式で函館へ帰ります。

●中村 徳三（71期昭和44年卒）
本の中に挟まっていた、この振込用紙を見つけ

ました。振込が遅くなって申し訳ありません。

●相馬 久緒（72期昭和45年卒）
今の所、元気です。楽しく生きており、幸いです。衣食足りて他人の笑顔の心境です。

●高田 恵子（73期昭和46年卒）
仕事と介護に追われる日々を送っております。大変な反面、充実もしています。皆様の健康とご多幸をお祈りしています。

●谷内 裕子（76期昭和49年卒）
幹事でいろいろ様です。

●猪狩 正夫（76期昭和49年卒）
I・B・Mから転職し、イトスという地元の会社に入りました。元気です。

●山平 匡人（78期昭和51年卒）
支払いが遅れましたこと深くお詫言申し上げます。

●野呂 勢子（80期昭和53年卒）
会報作成ありがとうございます。親睦大会ではいろいろとお世話になります。

●黒岡富久子（80期昭和52年卒）
第34回親睦大会の幹事期となり、同期と会う機会が増え、懐かしい再会もさせて頂きました。あらためて歴代の幹事の諸先輩に敬意を表し、親睦大会が函中との絆を確認できる好機と感謝致します。

●清水 真（82期昭和55年卒）
本務校の明大法科大学院教授の他、慶大法学部講師、財務省税関研修所講師、法科大学院協会常務委員等を兼務しております。

●田上 温子（103期平成13年卒）
白楊ヶ丘同窓会に参加することは年に1度の楽しみです。今年も楽しみにしております。

平成23年度 評議員会報告

日時・平成23年4月26日(火)
場所・インテリジェントロビー・ルコ
出席者・28名

会議に先立ち、安田支部長から「東日本大震災で被災された関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。また、10月の親睦大会は81期の方が頑張っているの宜しくお願したい」との挨拶があった。

以下の議案について審議

平成22年度収支実績および 平成23年度予算(単位:円)			
	22年度実績	23年度予算	
収入の部	年会費収入	1,824,000	2,100,000
	寄付金収入	538,000	300,000
	利息収入	371	
	大会費収入	1,432,000	1,400,000
	協賛広告	85,000	110,000
	合計	3,879,371	3,910,000
支出の部	会報印刷費	581,032	530,000
	会報送料	342,525	340,000
	会報諸費	44,471	30,000
	大会費	1,540,882	1,550,000
	大会諸費	98,475	90,000
	ネット関連費用	77,795	80,000
	運営費	985,499	1,090,000
	合計	3,670,679	3,710,000
	差引収支残	208,692	200,000
	次期繰越剰余金	4,951,281	5,151,281

し、全議案とも承認された。

(1)平成22年度事業報告
〈加納副支部長〉

親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等

(2)平成22年度収支決算報告
〈木戸理事〉

年会費納入608名、会員の皆様からのご寄付、協賛広告により、また運営費の節減努力を行った事により差引収支

残208,692円。平成23年4月18日、真船監事より監査をいただいた。

(3)平成23年度事業計画案
〈加納副支部長〉

親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等。今年度親睦大会は81期の企画運営で昨年と同じ会場のホテル東京ガーデンパレスで

開催の予定。

(4)平成23年度収支予算案
〈加納副支部長〉

昨年度の実績を参考に収支均衡予算とする。会費納入者の増、会報の広告宣伝、会報発送方法の検討など収入増、支出減を一層図る。

(5)役員選任及び異動の件
〈加納副支部長〉

新たに82期清水氏、廣田氏、97期桜田氏の理事選任、松川氏は函館に異動の為、36期松原氏はご逝去、42期安富氏は

ご高齢の為退任された。

引き続き、同会場において会費制で懇親会を実施した。会

では81期の松永氏から親睦大会イベント企画の説明協力依頼、松田、梅田副支部長より

同窓会運営・各種活動への協力の依頼があった。

(72期 村田 秀樹 記)

お知らせ コーナー 2

図書紹介 (同窓生の著書)

*このコーナーにご紹介したい情報(著作・創作活動・音楽活動・PRなど)を、自薦・他薦共にお寄せ下さい。ホームページへの掲載依頼も、本紙欄外のアドレス宛にご連絡ください。

長崎 憲一 第68期(昭和41年卒)

「ハイレベル精選問題演習数学Ⅲ+C」

長崎憲一 著 旺文社/1,470円

「ハイレベル精選問題演習数学Ⅰ+A・Ⅱ+B」

長崎憲一 著 旺文社/1,575円

「明解微分方程式」

長崎憲一・横山利章・中村正彰 著 培風館/1,470円

「明解複素解析」

長崎憲一・横山利章・山根英司 著 培風館/1,470円

「明解微分積分」

長崎憲一・横山利章 著 培風館/1,890円

「明解線形代数」

長崎憲一・横山利章 著 培風館/1,470円

西野 翠 第68期(昭和41年卒)

「梵文和訳 維摩経」

西野翠・高橋尚夫 著 春秋社/2,500円

山本 晴義 第68期(昭和41年卒)

「職場管理者のためのメンタルヘルス対策の本一実務に役立つ解説と相談事例Q・A」

山本晴義・曾田紀子 著 労務行政出版/2,100円

「ストレス一日決算主義」

山本晴義 著 生活人新書 NHK出版/672円

永倉千夏子 第82期(昭和55年卒)

「彼女」という場所—もう一つのマラルメ伝」

永倉千夏子 著 水声社/12,600円

ご寄付御礼

昨年度は9名の方からご寄付を頂戴いたしました。
お名前を掲載して御礼に代えさせていただきます。(敬称略)

昭和13年卒(40期) 今井清
昭和16年卒(43期) 梅崎総一 神山茂郎
昭和18年卒(45期) 石田準之助 川田陽吉 田中正昭 田沼修二
昭和19年卒(46期) 岩沢弥之助
昭和20年卒(47期) 堀田善和

誠に残念なことに、年会費の納入者数が年々減少しており、当支部の財政は、未だに弱々な状況です。本年も引き続き、会員の皆様からのご寄付を募っております。お志のある方は、ご協力をお願い申し上げます。

- 取扱金融機関/郵便局
- 口座番号/00190-1-124291
- 名称/白楊ヶ丘同窓会東京支部
- 振込用紙/郵便局備え付けの用紙をご利用ください。

白楊ヶ丘同窓会 東京支部 第35回親睦大会のご案内

2011年10月29日(土) 14:00～
ホテル東京ガーデンパレス 会費:8,000円
学生は無料(ただし年会費3,000円納入者のみ適用・当日会場での納入可)

テーマは **函館に帰ろう!**



白楊ヶ丘同窓会東京支部、今年の親睦大会は昨年同様、文京区湯島の「ホテル東京ガーデンパレス」で行います。今年81期生(昭和54年卒)が幹事となり、鋭意準備を進めております。

81期生の特徴を一つ挙げますと、この年受験した生徒350名余、全員合格でした。全入ということで大変な個性派ぞろいと言われたものです。

中部高校時代の思い出といえば、手作りの山車と仮装姿で練り歩いた白楊祭、先生チームと対決した球技大会、京都の暑さに驚愕した修学旅行などがありありと思ひ出されます。かつては新人類と呼ばれた81期生も50の舞台に乗り、首都圏在住30年を超える人が多くなりました。今、われわれにとって何よりも懐かしく、愛おしいのは青春時代を共にすごした函館の街です。

青い空、海、鮮やかな、透명한光の下にある、箱庭のような街だったと、東京にいるわれわれには感じられます。たまに帰省すると、その人の少なさに後ろめ

たさも感じます。そんな思いを込めて、今年「函館に帰ろう!」をメインテーマとしました。函館のお店紹介などを通して、少しでも故郷のお役に立てればうれしいです。

同窓生の交流、親睦をいっそう深める楽しい会にする予定です。10月29日お会いできるのを楽しみにしております。

(81期 高橋 範夫)



ホテル東京ガーデンパレス ご案内

■ホテル東京ガーデンパレス

〒113-0034 東京都文京区湯島1-7-5
電話:03-3813-6211 FAX:03-3818-6060

■アクセス

- JR中央線「御茶ノ水駅」下車、「聖橋口」より徒歩5分
- 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」下車、徒歩5分
- 東京メトロ丸の内線「御茶ノ水駅」下車、徒歩5分

※詳しくはホテルのホームページをご確認下さい。

ホームページ <http://www.hotelgp-tokyo.com/>



編集後記

会報の編集作業は、ふと過去を振り返るには良いきっかけになっています。高校の頃を思い出したり、1年前と現在を比較して何が変わったかなど、徒然なるままに想いを巡らしながら楽しく作業が出来ました。(朝緑高太/99期)

右も左も判らないまま同窓会に飛び込んで5年。会報を読み返すと、親睦大会で同窓会歌の指揮をさせていただいたことなどいろいろなことが思い出されます。今年はどうも新しいことが起こるのか、親睦大会が楽しみです。(小林秀輝/105期)

まず、東日本大震災で、被災された多くの皆様に、心からのお見舞いを申し上げます。そして、一日も早く復興の日が訪れることを願って止みません。それに関連して、65期 渡辺憲司氏の著書「時に海を見よ」を「お知らせコーナー」で紹介しました。ツイッターで「感動的すぎる」と全国に広まった卒業生へのメッセージと、新たに書き下ろした「3・11後を生きたための言葉」のエッセイ集です。会報の編集を30号から担当し、早や5回目の夏が過ぎました。毎年7・8月の暑さの中を慌しく過ごしてきましたが、若い後輩が編集に加わりPCを自在に駆使してくれるお陰で今年は効率がグンと上がり、かなり楽になりました。次の課題は新しい紙面作りです。少しずつですが成長しつつある「東京白楊だより」を、これからも応援してください。(U)

東京白楊だより34号

- 発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
- 発行人 安田 康次 (67期)
- 編集責任者 梅田 やよひ (69期)
- 発行日 平成23年9月2日

【東京事務所】
〒338-0012
さいたま市中央区大戸2-19-10
安田 康次 方
TEL・FAX 048-852-0988